Un petit cafe de Kobe 2003 その⑦

鯉川筋のチャーピーな三人

信時　哲郎

CHIRPY（チャーピー） caf（カフェ）催

神戸市中央区下山手通三―六―五

TEL　078（332）2229

営業時間　9:00～21:00

定休日　水曜

個人で始めたカフェ、姉妹で始めたカフェというのは神戸にも数多くある。しかし夫妻と義弟（あるいは姉弟と義兄というべきか……）の三人で経営するカフェというのは、変り種に属するのではないだろうか。

街の中心からちょっとはずれた鯉川筋という立地は、ゆったりくつろぐには絶妙のポイントだと思うのだが、「開店してみると、予想外にお客さんが少なくて、失敗したかな、と思ったこともありました」と撫利奈子さん。しかし開店して二年半たった今になってみると、この立地だからこそ様々な人に出会えたのだと思うようになったという。若い女性はもちろん、地元の人たちの井戸端会議、デート中のカップル、観光客、商談をするビジネスマン。距離が近いためもあってか、神戸山手大学の在学生・卒業生たちの支持も厚い。「チャーピーな（陽気な、楽しそうな）店になって欲しい」という開店当初の思いは、早くも実現しているようである。

夫は料理人、妻は元事務員という撫夫妻が、カフェ経営を始めようとしたところに、大学の法学部を卒業し、洋菓子店に勤務しながら専門学校でお菓子作りを学んでいた大江さんが合流。これがチャーピー・カフェの出発点。かつて文房具店だったという細長い店舗は、三人でプランを出し合いながら改装したのだという。

レンガ色の戸を開けると、白い壁と木の床、一番奥まったところにはガラス張りのケーキ工房。キッチンはその脇。椅子と机はバラバラ……と言うのも、三人がそれぞれ自分の好きなものを集めてきたからなのだそうだ。しかし、バラバラでありながらも不思議とバランスが取れているのは、そもそも三人の趣味が似ていたからなのだろう。

しかし、そう何から何まで三人でやっていたら、時には意見が対立することもあるのではないだろうか。

「いえ、三人だからいいんです。誰かと誰かの意見が対立しても、必ず多数決で決めることができますから……。」

「3」という数字にはなんとなく不安定なイメージがあるのだが、不安定なるほど！　部分を残しているからこそうまくいくこともあるようだ。思えばこのカフェも、鯉川筋という街中とも街外れとも言えるような場所にあるからこそ、誰が入ってきても、すぐに店の雰囲気になじむことができるのであった……

定休日を除いては、朝の九時から夜の九時まで休みなし。三人でローテーションが組めるとは言え、重労働であることには違いない。他のカフェはどんな感じなのか、街ではどんなものがはやっているのか……　若い人たちを相手にすることが多いだけに情報収集は欠かせないが、それに割く時間もなかなか確保できない。しかし、「三人寄れば文殊の知恵」という言葉もあるように、三人でアイディアを持ち寄って、また新しい展開を見せてくれるのだろう。

鯉川筋に、こんな看板が出ている→はず。

↑　ダークブラウンの床の色が、おちついた雰囲気をかもし出している。

コーヒー	三五〇円
ラテ	四五〇円
ダージリン	五〇〇円
ハイネケン	五〇〇円～
モーニングセット	三八〇円～
ランチセット	八〇〇円～
デリス	四三〇円
パイエクレール	二八〇円
シュークリーム	一五〇円

など